

引用文献

- A. Hiruta, K. Ishii, K. Hoshino, N. Ota, M. Kitazono, Y. Yaguchi, S. Horiuchi. (2021). The meaningfulness of the support group where who have terminated pregnancies can share their experiences: activity report of a Japanese support group. 32nd ICM Virtual Triennial Congress.
- Robert A .Neimeyer. (2002/2006). 鈴木剛子(訳), 大切なものを失ったあなたへ. (pp67-82). 春秋社.
- 青笹清香, 碓谷愛, 石川とも子. (2021). 総合周産期母子医療センターのNICU・GCUにおける遺族交流会に参加した遺族の思い. 日本新生児看護学会講演集. 30, 116.
- 濱田裕子, 藤田紋佳, 森口晴美. (2020). グリーフケアの今: 子どもを亡くした遺族への関わり: 遺族から学ぶグリーフケア. グリーフ&ビリーブメント研究. 1, 69-75.
- 蛭田明子. (2015). ペリネイタル・ロスのケアを考える: ケア提供者へのケア. 助産雑誌. 69(3), 214-219.
- 石井慶子. (2020). 「お空の天使パパ&ママの会」の実践活動: 周産期喪失体験者の多様なペイン. グリーフケア. 8, 135-146.
- 川村千恵子(2021). さまざまな死別をめぐって: 周産期に子どもを亡くした母親・家族への地域における支援活動大阪ドゥーラの会の活動報告. グリーフ&ビリーブメント研究. 2, 47-53.
- 厚生労働省. (2021). 令和3年(2021)人口動態統計(確定数)の概況 [ウェブサイト]. https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei21/dl/15_all.pdf (検索日 2022年11月25日)
- 宮本なぎさ, 太田尚子, 堀内成子, WAIS 関東支部. (2005). 死産を経験した母親を支えるケア: セルフヘルプミーティングがもたらす人間的成長. 聖路加看護学会誌. 9(1), 45-54.
- 水野真希. (2016). 人工妊娠中絶ケアの実態及び看護者のケアに対する認識. 母性衛生. 57(1), 166-173.

中村早智子, 荒井美佳, 宮前育実, 西野晶子, 堀部静香, 橘淳子, 宮本与志恵, 栢田瑞枝, 河瀬小織, 佐藤麻美, 三浦千春, 新田徳幸, 森悟子, 森泰宏 (2020). 流産に至った ART 患者に対するグリーフケアの試み. 日本赴任カウンセリング学会誌. 19(2), 115-119.

岡永真由美. (2005). 流産・死産・新生児死亡にかかわる助産師によるケアの現状, 日本助産学会誌, 19(2), 49-58.

大久保明子, 郷更織. (2011). 子どもを亡くした遺族に対するケアの現状と課題. 日本小児看護学会誌. 20(3), 20-27.

佐藤由佳. (2011). 効果的な「時間」「空間」「人材」の構築に向けて: 一緒に考えませんか?これからのグリーフケア: 父親・きょうだいへのグリーフケア. Neonatal care. 24(7), 676-680.

竹ノ内ケイ子, 伊藤美奈子, 中北充子. (2012). 不育症患者の支援における当事者組織活動の重要性: ピア・カウンセリングを含めて. 助産雑誌. 66(10), 838-844.

竹内正人. (2016). 周産期と死亡を考える: グリーフケア産科. 周産期医学. 46(3). 305-308.

田中美礼, 小赤澤香苗, 佐々木要. (2020). 死産を経験した親の思い: 遺族交流会の語りから. 盛岡赤十字病院紀要. 21(1), 50-54.

山下恵子, 清沢京子, 増澤景子. (2017). グリーフワークとしての産着づくりの試み. 松本短期大学研究紀行. 25, 69-72.

山下恵子. (2009). 悲しみ寄り添って: 子どもを亡くした親の会「たんぽぽの会」の活動から. 松本短期大学研究紀要. 18, 103-107.

豊奈々絵, 船戸正久. (2017). 看取りの医療 end of life care, 周産期医学. 47(1), 119-122.